

1996年2月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

北半球 500 hPa 高度場を見ると、北極海からシベリア東部にかけてと地中海からヨーロッパにかけて、五大湖周辺、太平洋の30°N帯で負偏差域となった。大西洋北部では中旬から下旬にかけてブロッキング高気圧が停滞し、顕著な正偏差が見られた。亜熱帯ジェットはほぼ平年の位置で、強さも平年並だった。熱帯の対流活動は、南シナ海から150°E付近までの広い範囲で活発だった。熱帯太平洋の東西風は、200 hPa では120°W付近で西風偏差が顕著だった。

世界の異常天候

① 日本～中国南部の少雨

② ヨーロッパ西部～アフリカ北西部の多雨

ヨーロッパ西部では多雨（雪）となった所が多く、イギリスのアバディーンで月降水量 128 mm（平年比 248%）となった。アフリカ北西部では低温多雨となっ

た。

③ アフリカ西部の高温

中東やアフリカ西部では異常高温となった所が多く、シリアのラタキアでは月平均気温15.8°C（平年差+3.5°C）となった。

④ アラスカのみ雨

アメリカ合衆国北西部やアラスカでは異常多雨となった。

⑤ アメリカ合衆国中部～南東部の少雨

アメリカ合衆国中部や南部では異常少雨となり、小麦の減収や林野火災が伝えられた。

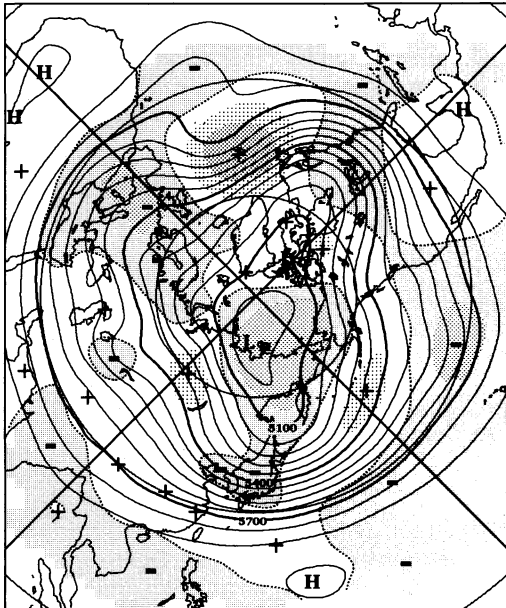
⑥ ミクロネシア～メラネシアの高温

⑦ オーストラリア南東部の低温

オーストラリア南東部で異常低温となり、キャンベラで月平均気温16.8°C（平年差-3.3°C）となった。

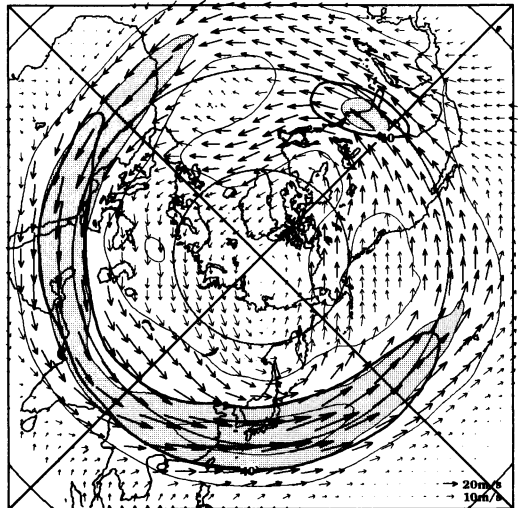
（気象庁予報部長期予報課 徳広 貴之）

anomalies (m)
-360 -300 -240 -180 -120 -60 0 +60 +120 +180 +240 +300 +360



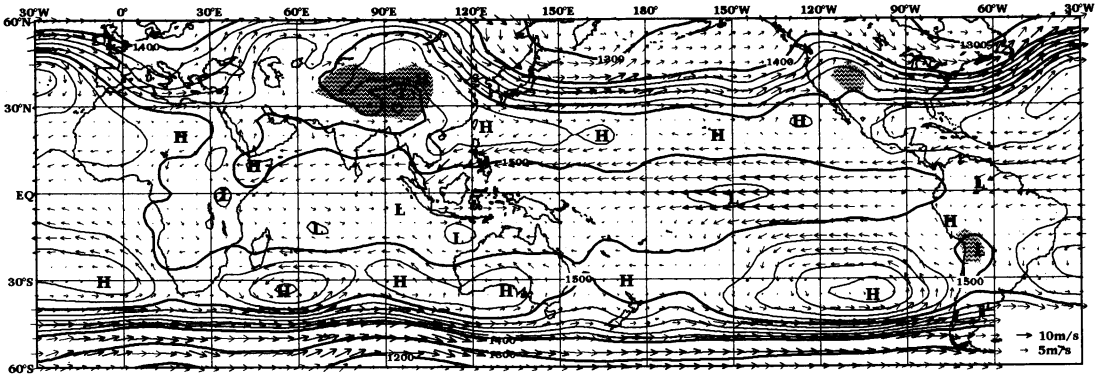
1996年2月の北半球月平均 500 hPa 高度および平年偏差

等値線間隔, 偏差パターン間隔は 60 m.
平年値は1961～1990年のデータに基づくもの。

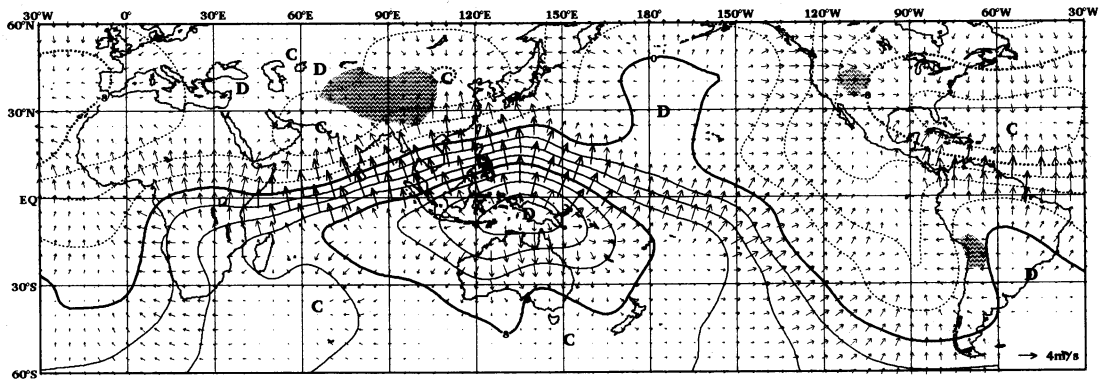


1996年2月の北半球月平均 200 hPa 風速および風ベクトル

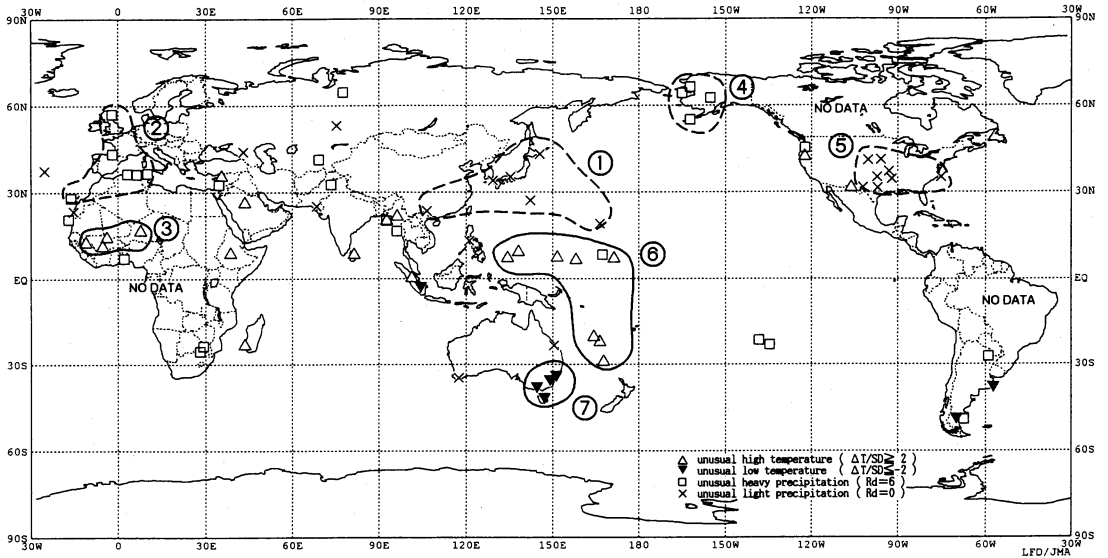
陰影部は平年で 40 m/s 以上。等値線間隔は 20 m/s。
平年値は1979～1990年のデータに基づくもの。



1996年2月の月平均 850 hPa 高度および風ベクトル 等値線間隔は 20 m (1400 m までは 100 m)



1996年2月の月平均 200 hPa 速度ポテンシャル 等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$



1996年2月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の2倍以上, 異常多雨・少雨は降水5分位値が6または0
 図中の番号は本文中の番号と対応している。